

岡崎市文化財指定調書

1 種別、名称及び員数	史跡 岩津城跡 指定面積 4,234 m ²
2 指定地の現状（品質、形状、構造、重量、大きさ、地積、範囲等）	山林 4,234 m ² （登記簿地積）
3 作者、作年代の徴証又は伝説	「妙心寺御由緒略記」によると松平泰親が1421年（応永28年）に松平より岩津に進出した。泰親の子信光は勢力を拡大し、岩津の西の城で死去、岩津城を惣領親長に譲った。このころまでに岩津城はつくられたと思われるが、その規模・形態は不明。1506年（永正3年）三河に侵入した今川氏により岩津城は攻められた。1571年（元亀3年）武田氏の軍勢が岩津にせまり、城南麓の信光明寺が焼かれた。以後岩津城は記録に現れない。
4 由来及び沿革	主郭と南郭及びそれらを結ぶ土橋と土橋両側から主郭をめぐる空堀が主な遺構。主郭と南郭には南側に大規模な土塁があり、他に主郭に付属する郭が主郭北側中心に幾段が残存する。これらを含む城域は東西150m南北200メートル程である。土橋南側は一部地続きの馬出し虎口で、他に主郭北側の郭から西側へ下る桁形虎口、土塁を巡る空堀の構造などいずれも戦国末期の構造であり、徳川家康と豊臣秀吉が対立した、1584、85年頃に西三河の他の城郭とともに家康により整備されたことが推定される。